

議会運営委員会 視察研修報告

総務常任委員会 視察研修報告

〔期間〕 10月23日～25日
〔目的及び視察地〕
「かすかべ未来研究所」
について

〔議会報告会〕について
（東京都調布市）
衆議院議員会館・
国土交通省
（東京都千代田区）

春日部市では、市の特性を生かした魅力あるまちづくりを進めて行く目的で、総合政策部政策課内に自治体シンクタンク「かすかべ未来研究所」が設置されている。組織体制は、所長、副所長、研究員は総合政策部職員との兼務で、具体的な研究は関係各課の職員と公募職員であった。所掌事務としては、①様々な行政課題を解決するために各種データ等の収集・分析や課題解決に向けた業務を行うこと。②各担当部署が行う計画策定等に対

する助言・相談、成果の情報発信を行うこと。③職員等の政策形成能力を高めるための人材育成などが行われていた。また、研究所の持つ「調査研究機能」「支援機能」「人材開発機能」を充実させる支援のため、特定の分野における専門的指導、助言を行う専門アドバイザーを置き事業推進が行われていた。



▲かすかべ未来研究所についての研修（春日部市）

〔期間〕 11月6日～8日
〔目的及び視察地〕
子育てオフィスについて
（兵庫県加古川市）
防災士育成事業補助金について

企業誘致について
（兵庫県伊丹市）
県関西中京事務所
（大阪市）

加古川市は大阪や神戸市、姫路市のベッドタウンで人口26万7千人。市民意識調査で、30歳代女性の就業率は57・1%と低く、すぐに働きたいと回答した人を加えれば70・3%、将来働きたいのは84・6%と子育て世代の女性が就労の場を求めている。

平成28年、多様な働き方で子育て世代の女性の就労の場として、ワーキングオフィスを全国展開する㈱マスタクエアの申請で、JR加古川駅の隣接地の商業ビルの一角に

子育てオフィスを開設。面接会では72名の内、採用は28名。子育てと仕事を両立させながらフルタイムに限らず柔軟な勤務時間で女性が活躍できる拠点。現地も視察し、小城市でも実証実験が計画されており、効果や現場を見て大いに参考となった。

伊丹市での防災士育成事業補助金は、23年前の阪神大震災の経験から防災士養成に力を入れた。特に市内3か所に飲料水を貯める耐震性貯水槽設置は参考になった。



▲子育てオフィス前（加古川市）

〔期間〕 11月6日～8日

〔目的及び視察地〕

自治体病院の再編・統合について

（茨城県筑西市）

ネウボラ事業について

（東京都文京区）

の考え方、統合検討の過程における議会の関与等

研修した。

東京都文京区では、フィンランド語で助言やアドバイスの場を意味する、ネウボラ事業について視察した。ここでは、母子保健コーディネーター（地区担当保健師）を配置する「母子保健型」で事業が進められており、中でもネウボラ面接（妊婦全数面接）などで

妊娠期からの相談を受けていることが広く認識されつつあり、医療機関や助産師、児童福祉部門との連携が妊娠中や出産直後など、より早い時期からスムーズに行えるということだった。また、宿

泊型ショートステイ事業

など産後ケア事業の充実

で、タイムリーに専門的なケアが提供でき、要支援者をキャッチできるチャンネル（機会）が増えたということである。核家族化、地域のつながりの希薄化、初産婦の高

齢化、妊産婦の孤立感の解消など、小城市においても共通する課題について研修した。

〔期間〕 10月31日～

11月2日

〔目的及び視察地〕

スマートインターチェンジを核としたまちづくり

（滋賀県長浜市）

移住・定住支援事業について

（岐阜県中津川市）

定住支援事業について視察した。人口減少に歯止めをかけるために、「住み続けたい・住んでみたいまちづくり」の実現を

めざし、ふるさとお帰りの支援事業や新婚さんいらっしやい事業など多くの支援事業がなされている。

最後に、佐賀県関西中京事務所を訪ね、農産物の販売状況と企業誘致の説明を受け、意見交換を行った。

の支援事業がなされている。

最後に、佐賀県関西中京事務所を訪ね、農産物の販売状況と企業誘致の説明を受け、意見交換を行った。

これまで中核的役割を果たしてきた2つの公立病院（筑西市の筑西市民病院と桜川市の県西総合病院）は、医師不足により医療機能が縮小し、事実上急性期医療が担えない状態になり、多くの患者が隣接するつくば保健医療圏や県外での治療を余儀なくされていた。新病院の位置決定が紆余曲折した結果、3病院を2病院へ再編統合となり、両市双方に新設の病院が整備されることになり、各病院の設置場所はそれぞれの市が決定した。それぞれの地域で医療の役割を分担するという考え方や、候補地選定の要件

た。また、宿



▲ネウボラ事業の研修（東京都文京区）

長浜市は、スマートインターチェンジ開通（平成29年3月）に合わせ、計画地周辺の活性化対策として幅広く色々検討したが、最終的に「農業」を軸とした、新しい産業やサービスを生み出す拠点づくりに取り組まれていた。その具現化に向け「小谷城スマートインターチェンジ周辺6次産業化拠点構想」が立ち上げられ「同構想懇話会」を設置して、長浜市ならではのアグリビジネスの産業集積地をめざされていた。



▲まちづくりについての研修（長浜市）